

新学習指導要領とGIGAスクール構想の関係

2030年の社会と子供たちの未来（平成28年12月中央教育審議会答申から抜粋）

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難に



社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば難しい時代

変化を前向きに受け止め、社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものに

平成29年、30年、31年学習指導要領

前文 これからの学校には、（略）一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

育成を目指す資質・能力の三つの柱

学びに向かう力、人間性等

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

資質・能力の育成



・各教科等で育成を目指す資質・能力の育成
・言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成等

授業改善

学習指導要領 総則
第3 教育課程の実施と学習評価

主体的・対話的で深い学び

一体的に充実

学習指導要領 総則
第4 児童（生徒）発達の支援

個別最適な学び（教師視点では「個に応じた指導」）、協働的な学び

主体的・対話的で深い学び、個別最適な学び及び協働的な学びに生かす

GIGA※スクール構想（1人1台端末・高速ネットワーク）（カリキュラム・マネジメントにおける物的な体制整備に位置付けられる。）

教育・学習におけるICT活用の特性・強みを生かし、新学習指導要領の趣旨を実現するため重要な役割を果たす。

※Global and Innovation Gateway for Allの略

教育・学習におけるICT活用の特性・強み（GIGAスクール標準仕様において活用できるソフト・機能(例)）

1人1台端末、高速大容量の通信ネットワーク環境下におけるICT活用の特性・強み	ソフト・機能
① <u>多様で大量の情報の取扱い、容易な試行錯誤</u>	ウェブブラウザ、文書作成、表計算、プレゼンテーション、プログラミング
② <u>時間的制約を超えた情報の蓄積、過程の可視化</u>	（①のソフト・機能に加え、）クラス管理、写真・動画撮影・編集・保存
③ <u>空間的制約を超えた相互かつ瞬時の情報の共有（双方向性）</u>	（①のソフト・機能に加え、）コメント、アンケート、チャット、電子メール、ウェブ会議、ファイル共有

教育・学習におけるICT活用の特性・強みを生かすことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につなげ、情報活用能力等の従来はなかなか伸ばせなかった資質・能力の育成や、今までの学習方法では困難が見られた児童生徒の一部への効果の発揮、今までできなかった学習活動の実施が可能になる。

特設ウェブサイト「StuDX Style」について

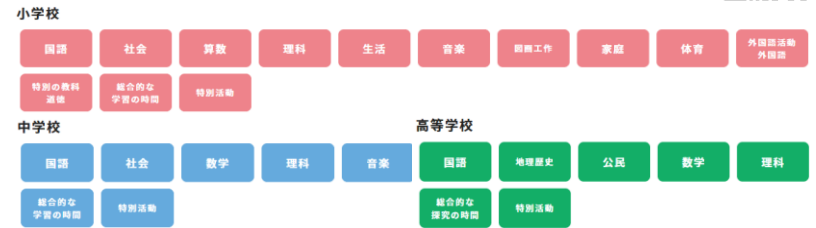
特設ウェブサイト「StuDX Style」では、1人1台端末の更なる利活用の促進に向けて、全国の学校や自治体から提供いただいた端末の活用方法に関する優良事例等を数多く紹介しています。

具体的には、活用のはじめの一步となる「慣れるつながる活用」、各教科等の学習に生かす「各教科等での活用」の事例を紹介するとともに、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていく「STEAM教育等の教科等横断的な学習」の取組事例もあわせて掲載しています。



各教科等での活用事例

各教科等の指導における1人1台端末の活用事例について小学校・中学校・高等学校の各教科等のポイントや、各教科等の特質を踏まえた活用事例を紹介しています。



STEAM教育等の教科等横断的な学習の取組事例

STEAM教育等において、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進している自治体や学校の取組事例を紹介しています。



GIGAに慣れる活用事例

学習環境づくり等の取り組みやすい事例や、パスワード指導やルールづくり等の適切で安全な端末活用の事例などを中心に、1人1台端末の活用に取り組み始める先生方へのヒントとして紹介しています。

「つながる」活用事例

「教師と子供がつながる」「子供同士がつながる」「学校と家庭がつながる」「職員同士でつながる」について、授業等での活用のヒントが欲しい先生に向けての活用事例を紹介しています。

各OS事業者との連携

iPad活用に関する資料 (提供元 Apple)

Google for Education
活用に関する資料 (提供元 Google for Education)

Microsoft Education
活用に関する資料 (提供元 日本マイクロソフト株式会社)

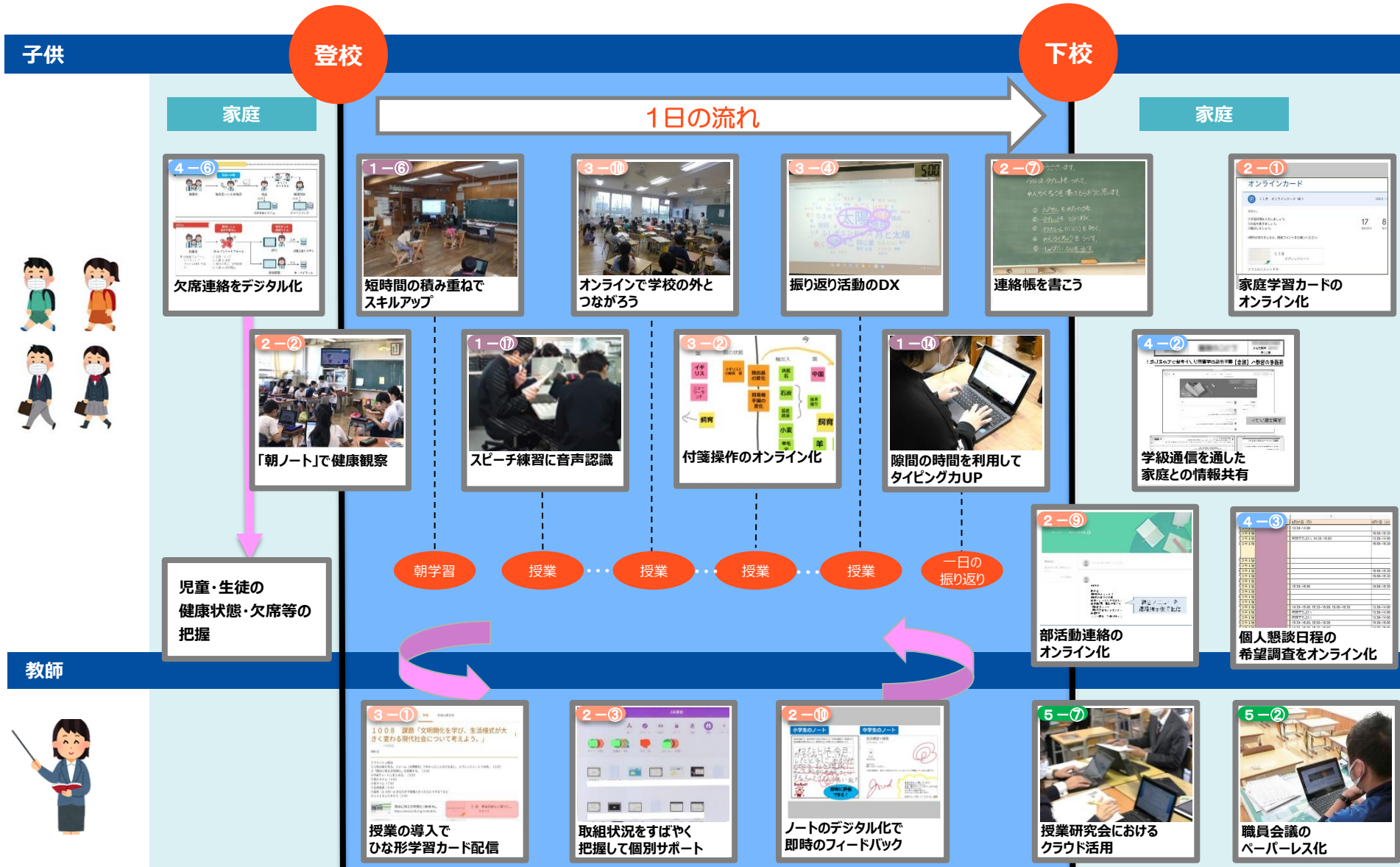
各OS事業者と連携し、StuDX Styleの事例の使い方などを紹介しています。

特集ページ

自宅等でのオンラインを活用した学習指導に関する事例や、先進的に取り組んでいる自治体の研修情報やコンテンツ情報などを紹介しています。

"すぐにでも" "どの教科でも" "誰でも"活かせる1人1台端末の活用シーン (例)

StuDX Style掲載の事例から考えられる学校や家庭における1人1台端末を活用した1日の流れの一例



※各事例をクリックするとStuDX Styleの事例ページにアクセスできます。

この他の事例はこちら URL : <https://www.mext.go.jp/studxstyle/>

「1コマの授業の流れ」を意識した1人1台端末の活用シーン（例）

StuDX Style掲載の事例から考えられる学校での1人1台端末を活用した1コマの授業の流れ

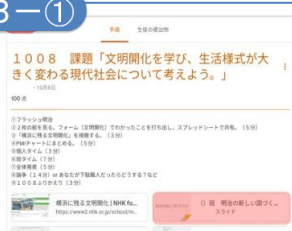
導入

展開

終末

めあて

3-①



授業の導入でひな形学習カード配信

教師がプレゼンテーションソフトで作成した学習カードのひな型を配信

メールを受信したらプレゼンテーションソフトを開き、めあてや学習内容を確認

個人

1-⑩



デジタル付箋を使ってみよう

デジタル付箋に思い付く言葉をたくさん書き出す

付箋を並び替えて仲間分け

グループごとに名前を付けて情報を整理

ペア・グループ

3-⑥



共同編集で学習のまとめを作成


教師が「学習のまとめ」用のプレゼンテーションのひな型を配信

隣の児童生徒とペアになって共同編集

完成後はグループをつくり他の考えを見合う

まとめ

3-⑧



いろいろな意見を出し合って互いの考えを深めたり広めたりしよう

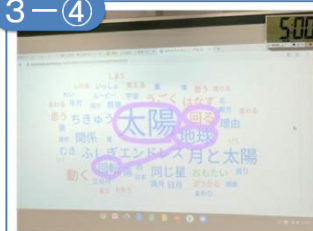
デジタルホワイトボードソフトに自分の考えを入力

クラス全員と効率的に考えを共有

他の児童生徒の考えに触れる中で、自らの考えを深めたり広げたりする

振り返り

3-④



振り返り活動のDX

アンケート機能を活用し振り返りの記述を提出

全員の回答が瞬時に共有

教師による即時評価

ICT端末について、授業における活用シーンに着目して整理すると、特定の教科や単元の内容に関わらず、汎用的かつ日常的に活用することができます。児童生徒が日常的にICT端末を活用することで、情報活用能力の育成にもつながります。

あくまで一例であり、単元や題材のまとまりの中で、各教科等の特質を踏まえて1コマを位置づけることも重要です。